

## I T S無線システム委員会（第1回）議事要旨

1 日時：平成21年7月30日（木）10：00～11：45

2 場所：総務省11階第3特別会議室

### 3 参加者

#### （1）出席者（順不同、敬称略）

川嶋 弘尚（主査）、唐沢 好男（主査代理）、伊藤 数子、  
奥谷 正（代理：大庭 孝之）、門脇 直人、工藤 俊一郎（代理：高田 滋）、  
桑原 雅夫、小林 久美子、島 雅之、正源 和義（代理：大崎 公士）、  
高安 美佐子、豊増 俊一（代理：大石 賢治）、西川 幸男、  
橋本 晃（代理：渋谷 秀悦）、廣瀬 弥生、柵木 充彦、  
矢野 厚（代理：山田 雅也）、山内 輝暢（代理：縄田 俊之）、  
若尾 正義

#### （2）事務局

竹内移動通信課長、坂中移動通信企画官、井出課長補佐

### 4 議題

（1）情報通信審議会への諮問について

（2）委員会の運営方針（案）について

（3）700MHz 帯安全運転支援通信システムの技術的条件に関する  
調査の進め方（案）について

（4）I T S無線システムの概要について

### 5 配布資料

資料 2029-1-1	第 68 回情報通信審議会情報通信技術分科会諮問書
資料 2029-1-2	ITS 無線システム委員会運営方針（案）
資料 2029-1-3	ITS 無線システム委員会構成員
資料 2029-1-4	700MHz 帯安全運転支援通信システムの技術的条件に関する 調査の進め方（案）
資料 2029-1-5	ITS 無線システム委員会作業班運営方針（案）
資料 2029-1-6	ITS 無線システム委員会作業班構成員（案）
資料 2029-1-7	ITS 無線システムの概要
資料 2029-1-8	「ITS 無線システムの技術的条件」についての関係者からの 意見聴取

## 6 議事概要

### (1) 情報通信審議会への諮問について

- ・事務局より資料 2029-1-1 及び資料 2029-1-7 に基づき、I T S無線システムの技術的条件のうち700MHz帯安全運転支援通信システムの技術的条件の諮問の背景等について説明が行われた。質疑応答における主な発言は以下のとおり。

唐沢専門委員：安全運転支援のためのI T S無線システムには700MHz帯及び5.8GHz帯を用いたものがあるが、今回は700MHz帯を用いた車車間通信と路車間通信について検討を行うとの認識で良いか。

事務局：700MHz帯を用いた安全運転支援のための無線システムの技術的条件についての諮問となっている。検討事項としては大きく2つあり、車車間・路車間共用通信方式及び隣接他システムとの共存条件についてご議論頂きたい。

### (2) 委員会の運営方針(案)について

- ・事務局より資料 2029-1-2 に基づき説明が行われ、案のとおり委員会運営方針が了承された。また、川嶋主査より唐沢専門委員が主査代理に指名された。

### (3) 700MHz帯安全運転支援通信システムの技術的条件に関する調査の進め方(案)について

- ・事務局より資料 2029-1-4 に基づき説明が行われ、案のとおり作業班を設置することが了承された。また、川嶋主査より作業班の主任に唐沢専門委員が指名され、構成員は資料 2029-1-5 のとおりとすることが了承された。

### (4) I T S無線システムの概要について

- ・事務局より資料 2029-1-7 に基づき説明が行われた。質疑応答における主な発言は以下のとおり。

高安専門委員：I T S安全運転支援無線システムの普及予測はどのように行ったのか。また、システムの通信要件としてパケット到達率を定義しているが、パケット到達率がどの程度まで落ちると実際にサービスを行うための通信が不可能になるのか。

事務局：普及予測については、既に実用化している類似サービスであるE T CとV I C Sの普及率を参考に算出。システムの通信要件について、車車間通信については、国土交通省自動車交通局が実施しているA S Vプロジェクトでの検討状況に基づき、通信要件として、車が10m走行する間に必要なパケット

到達率を 95%以上としている。路車間通信についてもそれに準じてパケット到達率 95%以上としている。

廣瀬専門委員：各国で道路環境等が異なっており、どこまで国際標準化を図るかは課題である。海外の仕様と上手く協調を図っていくことが必要と考える。

若尾専門員：本年 7 月に世界の電気通信に関する標準化機関が参加する G S C と呼ばれる意見交換会が開催され、I T S がテーマの一つとなった。その中で、I T S については今後の議論を電波産業会がとりまとめていくこととなった。また、電波産業会が事務局をしている I T S 情報通信システム推進会議では運転支援通信システム国際対応WGが設置され、そこで国際標準化に向けた議論がされている。

高安専門委員：700MHz 帯 I T S 無線システムの実用化に向けて技術的に足りない部分はどこか。

事務局：本年 6 月に取りまとめられた I T S 無線システムの高度化に関する研究会において、通信面での技術課題が抽出されている。その中では、本委員会で主にご検討頂く車車間・路車間通信の共用方式や隣接他システムとの共存条件の検討の以外に、シャドウイング・自システム内の干渉回避方策や自車位置精度の向上、通信を行う上でのセキュリティ確保といった課題があげられている。

伊藤専門委員：I T S は、高齢者や障害者などの交通弱者の安全確保にも貢献できるものと期待している。特に、車車間通信は多くの車に搭載されることで利便性が向上するものと認識。

川嶋主査：交通弱者の利便性の観点については、自動車メーカーをはじめ各社で検討が進められているかと思うので、機会があれば紹介頂きたい。

大庭代理：ユーザの視点としては、どの程度の搭載率で実際に効果が出るのかといった普及と効果の観点が一つある。また、今回検討を行う 700MHz 帯のシステムは 2012 年からの利用となるが、それと別に間もなく実展開されるサービスもある。2012 年以降既存のサービスから新しいサービスにどのように発展させるのかという観点が必要ではないか。

川嶋主査：そのあたりについては官民含めたユーザ側から提案をすることも考えられるが、それについては他の場で議論することになると思う。本委員会の一番のミッションは 700MHz 帯に関する検討であるため、その優先度を高めて議論していきたい。

桑原専門委員：無線システムに求められる通信要件の検討は、今後作業班で行うのか。

事務局：通信要件については A S V をはじめ各所で利用者の観点から要求要件の議論がされており、先般の研究会で既に提示いただいている。本委員会ではそれを踏まえた上で検討を行って頂きたい。

門脇専門委員：現在NICTではITSのテストベッド整備を進めており、テストベッドを活用した技術調査も有効。

事務局：本委員会での検討と平行して車車間・路車間通信共用方式及び隣接他システムとの共存条件に関する技術調査を実施予定。そこでの検討結果も適宜委員会に反映し、技術的条件の検討に役立てていただく予定。

○その他

- ・事務局より資料 2029-1-8 に基づき、関係者からの意見聴取について説明が行われた。
- ・事務局より第2回会合を平成21年9月10日(木)10時から総務省8階第1特別会議室にて実施予定との連絡があった。

○閉会

以上